

51. 命令法

1. 命令法 (Imperativ) とはなにか

あることを相手に命令するということはほんらい目の前にいる相手に向かって行うわけですから、命令法は原則的には2人称にだけ使われます。ドイツ語は2人称には親称と敬称があり、それぞれ単数形と複数形があるため、原形動詞を用いるだけの英語のようには簡単ではありません。

2. 命令法のかたち

英語では一般的ではありませんが、ドイツ語では命令法であることをはっきりとしめすために原則として文末に感嘆符[!](Ausrufezeichen)をつけます。

さらに分離動詞の命令法はその接頭語は分離してかならず文末へおかれます。

また、命令を強めるために bitte「どうか」、nur「とにかく」、doch「ぜひ」、(ein)mal「さあ(ちよつと)」、ja「…だよ」などの副詞を加えることもあり、これらはドイツ語に特有のもので、心態詞とよぶこともあります。

命令法は以下のようなかたちでつくります。

a. du (親称2人称単数)にたいして

不定詞の語幹 + -(e)! (主語の du は省略される)

語幹が -d, -t, -chn, -ffn などで終わるもの、つまり現在人称変化で語幹に -e を加えるものや、-ig で終わるものには -e をつけますが、その他の動詞は語幹のみで -e をつけるかどうかは自由です。また、-e を省略したことを示すために省略符['](Apostroph)をつけることもあります。

gehen	Geh(e)!	「行け！」	kommen	Komm(e)!	「来い！」
arbeiten	Arbeite!	「働け！」	reden	Rede!	「語れ！」
entschuldigen	Entschuldige!	「ごめん！」			
aufstehen	Steh(e) auf!	「起きろ！」	beginnen	Beginn(e)!	「始め！」

Komm(') nur zu uns!

「とにかくうちに来いよ！」

He! Guck mal!

「ねえ、ちよつと見て！」

-elnで終わる動詞は発音をなめらかにするために語幹の e をとってしまうことが普通です。-ern で終わるものはとる場合ととらない場合があります。しかしいずれにせよ e をとるかどうかは発音の問題ですから、とらないから間違いだなどということはありません。

handeln	Handle!	「行動せよ！」	ändern	Änd(e)re!	「変えろ！」
---------	---------	---------	--------	-----------	--------

親称2人称単数の命令のかたちでちよつとめんどうなことがあります。それは不規則動詞のうちで単数2・3人称で幹母音の e が i あるいは ie になるものは命令法でもそのように変わり、しかも語尾の -e は決してつけませんが a が ä になるものは変音しないのです。

sprechen	Sprich!	「話せ！」	lesen	Lies!	「読め！」
teilnehmen	Nimm teil!	「参加せよ！」	vergessen	Vergiss!	「忘れよ！」
schlafen	Schlaf(e)!	「眠れ！」	waschen	Wasch(e)!	「洗え！」
sehen	Sieh(e)!	「見よ！」			

最後の sehen は原則からすると e が ie に変わる不規則動詞ですから語尾の -e はあつてはならないはずですが、例外的に研究論文などで「…を参照せよ」という意味の時は Siehe! となります。

Sprich noch lauter! 「もっと大声でいってよ！」
 さらに次の動詞は変則的な変化をします。これらは重要な動詞ですから注意しましょう。
 sein Sei! 「…であれ！」 werden Werde! 「…になれ！」

b. ihr (親称2人称複数)にたいして

不定詞の語幹 + -(e)t! (主語の ihr は省略される)

これはつまり ihr の現在人称変化とまったく同じかたちで、ただ主語を省略しただけです。

gehen Geht! 「行け！」 kommen Kommt! 「来い！」
 arbeiten Arbeitet! 「働け！」 reden Redet! 「語れ！」
 aufstehen Steht auf! 「起きろ！」 beginnen Beginnt! 「始め！」

ihr の場合は人称変化には不規則はなく、発音のつごうで e を入れるかどうかだけです。

sein Seid! 「…であれ！」 werden Werdet! 「…になれ！」

c. Sie (敬称2人称単数・複数)にたいして

不定詞の語幹 + -(e)n Sie! (主語の Sie は省略されない)

これはつまり疑問文とまったく同じかたちで、区別するにはその文の最後を上げて発音すれば疑問文となり、下げて発音すれば命令文になるのです。しかし文章のなかではわかりませんから疑問文は疑問符[?]を、命令文では感嘆符[!]をつけます。また敬称2人称の命令法は単数も複数も同じです。

gehen Gehen Sie! 「あなた(たち)は行きなさい！」
 kommen Kommen Sie! 「あなた(たち)は来なさい！」
 aufstehen Stehen Sie auf! 「あなた(たち)は起きなさい！」
 beginnen Beginnen Sie! 「あなた(たち)は始めなさい！」

ただ sein のみ敬称2人称の命令法で変則になります。本来なら sind Sie! となりそうですが、そのようにはなりません。

sein Seien Sie! 「あなた(たち)は…でありなさい！」

Seien Sie bitte still! 「どうか静かにしてください！」

この敬称の Sie に対する命令法を複数1人称の wir にたいしておこなうと、英語の let us + 原形動詞の意味となります。

Gehen wir zusammen! 「一緒に行きましょう！」

以上の規則をまとめると次のようになります。

不定詞	親称2人称単数 (du にたいして)	親称2人称複数 (ihr にたいして)	敬称2人称単数・複数 (Sie にたいして)
gehen	Geh(e)!	Geht!	Gehen Sie!
essen	Iss!	Esst!	Essen Sie!
schlafen	Schlaf(e)!	Schlaft!	Schlafen Sie!
sein	Sei!	Seid!	Seien Sie!

われわれドイツ人ではないものがたまたまドイツへ行った場合などには親称を使うことは少なく、おおむね敬称のかたちがかえればいいでしょう。しかしドイツに住めば、親が子に、教師が生徒にたいして使うだけではなく、友人や同僚同士で、あるいは同じ学校に通っていればたとえ友人でなくてもお互いに親称を使うのが普通ですから、親称のかたちも使えなくてはなりません。